

2020年3月8日（日）

主 題：「神に選ばれた人々」

—アイデンティティー

テキスト：1 ペテロの手紙1章2

はじめに

- ・皆さん！ 「クリスチャンってどういう人」、と聞かれたことはありませんか？
何と答えられるでしょうか。「教会に通っている人」、「洗礼を受けている人」、「キリストを信じている人」と答えるでしょうか。
- ・もちろん、それらも正しいことでしょう。しかし、それだけでしょうか。
もし、クリスチャンの「アイデンティティ」は何ですか、と尋ねられたら何と答えるでしょうか。「アイデンティティ」とは、自分が何者であるかということです。
- ・クリスチャンの「アイデンティティ」、それは天に国籍をもつ者として、今は地上で散り散りになって寄留している者と言えましょう。天に国籍がありますから、やがては（or いつの日か）、そこに行く者であります。そこは罪、争い、誤解、批判、病気、不安、人間関係の困難などが無い所です。創造神がご支配される「神の国」です。私たちは、やがてその幸いな「神の国」に入る者です。それが神を信じるクリスチャンでしょう。そしてそこにこそ、「アイデンティティ」があると思います。
- ・じつは、ペテロはあの迫害下で離散した（ディアスポラ）ユダヤ人クリスチャンに、その神の国に入る喜びを語っています。ペテロがこの書簡を書いたのは、キリストの十字架語すでに約30年が過ぎていました。しかし「神の国」に入る喜びは変わりません。
- ・それがこの書簡の大切なポイントです。私たちキリスト者は、そのために選ばれた存在です。今日は、次の2点、私たちは；1「神が選ばれた存在」、2「神が与える働きに生きる存在」であることをお語りしたいと思います。

大切なポイント

1. 神に選ばれた人々

1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。

1) 選びの土台

- ・「父なる神の予知のままに」とあります。「予知」とは、天気予報の予知、あるいは地震の予知、という際に用いる言葉です。前もって知る、あらかじめ知ることです。ローマ人への手紙8章には次のように書かれています。

8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

8:30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、

義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。

- ・神は私たち、「あらかじめ知っている人たちを」救いに召してくださいました。神はすべてをご存じです。

また聖書は次のように語っています。

ヘブル人への手紙4章

4:13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。

マタイ福音書10章

10:30 あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。

- ・考えてみれば、当然のことです。私たちの命そのものが神によって与えられ、支えられているのですから、神が私たちをご存じなのは当然です。詩篇は次のように語っています。

詩篇139篇

139:1 【主】よあなたは私を探り知っておられます。

139:2 あなたは私の座るのも立つのも知っておられ遠くから私の思いを読み取られます。

139:3 あなたは私が歩くのも伏すのも見守り私の道のすべてを知り抜いておられます。

139:4 ことばが私の舌にのぼる前になんと【主】よあなたはそのすべてを知っておられます。

- ・神は、私たちをよく知らなくて選んだものではありません。いいえ、すべてをご存じです。どれほど弱いか、どれほど高慢か、そればかりか、何を必要としているか、私たちの性格、賜物、すべてをご存知です。知っておられ、そしてお選びくださいました。神は、私より私を知っておられるお方です。ここに選ばれた土台があります。「選びの土台」は、「父なる神の予知のまま」です。

2) 選びの実現

1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。

- ・「御霊による聖別によって・・・選ばれた」とあります。神の選びが現実となるのは、「御霊による聖別」にあります。御霊が私たちをきよめてくださることによって、選ばれた者としての私たちが形づくられていきます。
- ・具体的に言えば、聖霊は私たちを覚醒させてくださいます。私たちは、自分の罪になかなか気づきません。聖霊は罪を気づかせてくださいます。自分が、罪の赦しを必要とすることに気づかせてくださいます。
- ・ですから、イエスは次のように言われました。マタイ福音書
12:32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。
- ・聖霊はイエス・キリストの十字架に解決があることを分からせてくださいます。十字架を見上げさせ、罪が贖われ、赦された喜びを与えてくださいます。

聖霊は自分が神から離れていたり、自分にプライドや高慢があれば、それに気づかせ、悔い改めるように導いてくださいます。

- 神がともにいてくださること、神が愛してくださっていることを分からせてくださいます。そのようにして、私たちはきよめられていきます。
- 「聖別」とは、聖く分かつ、ということです。簡単に言えば、固く握りしめていた「自分のもの」を、自分のものではなく神のものであると気づかせてくださいます。そして、自分にではなく、神に自分を献げて、神のものとして生きることです。

『例 話』

- 私は30歳の時、神の召命のみことばを受けました。それは、自分の手にしていたものを、手放すよう聖霊が促してくださいました。私は生涯を「献げよう」と思いました。そして宣教生活が始まりました。このように、聖霊は私たちを促し「聖別」してくださいます。
- しかし、それは牧師や伝道師になることだけではありません。いろいろな仕事に就きながら、自己中心に生きるのではなく、神のしもべとして生きるよう聖霊が促し、私たちを「聖別」してくださいます。それは平安、自由、祝福であります。

3) 選びの目的

- では、私たちはなぜ選ばれ、「聖別」していただけるのでしょうか。その目的は、どこにあるのでしょうか。

1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。

- 「イエス・キリストに従うように・・・選ばれた」とあります。私たちが選ばれたのは、「イエス・キリストに従うようになるためなのです。じつは信じるということは、従うということです。

• ローマ人への手紙1章

1:5 この方によって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすためです。

- 信じることは、従うことです。もし、信じるだけであるならば、自分のために神を利用する、自己中心的な信仰になってしまうかもしれません。そのような信仰は行き詰まるでしょう。信じるだけでなく、従うという姿勢が確かに必要でしょう。主に従っていかなければ、分からないことが、多々あります。
- 神は私たちを選び目的を持っておられます。それが、次のポイントです。

2. 神が与える働きに生きる人々

1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。

- もう1点、大切なことがあります。私たちが選ばれたのは、「キリストの血の注ぎかけを受ける」ためであったことです。「血の注ぎかけ」については、ヘブル人への手紙には3つのことが書かれています。「罪のきよめの血」、「契約の血」、「聖別の血」です。

1) 「罪のきよめの血」

・ヘブル人への9章

9:22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。

9:14 まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。

・ 私たちには自分の良心が働き、自分の罪を自覚させられます。神 m の前に立てない自分を意識して不安になります。そのような者が十字架のキリストを仰ぐとき、キリストの流された血によって、罪が赦され、清められたことを知ります。そして平安（シャローム）を得るのです。 I ヨハネの手紙

1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

・ それはキリストを信じた入信時だけではありません。いいえ、クリスチャンとして歩む、毎日のことでもあります。繰り返し自分の罪に気づかされ、十字架を仰ぎ、キリストの血による「罪のきよめ」を感謝し生きるのです。

2) 「契約の血」

・出エジプト24章

24:3 モーセは来て、【主】のすべてのことばと、すべての定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えた。「【主】の言われたことはすべて行います。」

24:4 モーセは【主】のすべてのことばを書き記した。モーセは翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、また、イスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。

24:5 それから彼はイスラエルの若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のささげ物を献げ、また、交わりのいけにえとして雄牛を【主】に献げた。

24:6 モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分を祭壇に振りかけた。

24:7 そして契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らは言った。「【主】の言われたことはすべて行います。聞き従います。」

24:8 モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、【主】があなたがたと結ばれる契約の血である。」

・ 旧約聖書時代、イスラエルの民は動物の血を流すことによって、神の民とされました。流された血によって、神とも特別な関係に入ることができ、神の民として歩むことができるのです。もう1つは「聖別の血」です

3) 「聖別の血」

ヘブル人への手紙10章

10:11 さらに、祭司がみな、毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえを繰り返し献げても、それらは決して罪を除き去ることができませんが、

- 10:12 キリストは、罪のために一つのいけにえを献げた後、永遠に神の右の座に着き、
- 10:13 あとは、敵がご自分の足台とされるのを待っておられます。
- 10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。
- 10:15 聖霊もまた、私たちに証ししておられます。というのも、
- 10:16 「これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す」と言った後で、
- 10:17 「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。
- 10:18 罪と不法が赦されるところでは、もう罪のきよめのささげ物はいりません。
- 10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。
- 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。
- 10:21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、
- 10:22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。
- 私たちもキリストの血の注ぎを受けて、神に用いられていきます。
なぜなら、神の御子キリストの尊い血が、犠牲としてささげられたからです。
これら3点、「罪のきよめ」、「契約の血」、「聖別の血」は、互いに切り離すことができません。
 - 皆さん。私たちはキリストの血の注ぎを受けて、罪をきよめられ、神の民とされました。そして神とともに進むことができます（臨在）。さらに、神が与えてくださる働きにあたることができます。
 - ドイツ語で職業を、Berufと言います。これは動詞berufen(神が任命する、呼び出す)の名詞形であります。神が任命し、呼び出して与えてくださる働き、それがドイツ語でいう職業(Beruf)です。日本語では天職と言えましょう。
 - 神は私たち神を信じるキリスト者を、呼び出し教会(エクレシア)に集めてくださいました。そして「キリストのからだ」につながる器官として、働きも与えてくださいました。私たちも「神に選ばれた人々」です。なんという幸いではありませんか。
 - 今日は、「神に選ばれた人々」の幸いを覚えました。まとめてみましょう。

ま と め

主 題：「神に選ばれた人々」

—アイデンティティー—

1:2 父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。

1. 私たちは神の選びの民

- ・神はすべてをご存知で私たちを選んでくださった。聖霊なる神は、私たちの心に語りかけ、心を神に向けさせてくださいます。そして聖別され、イエス・キリストに従い生きるようにさせてくださいました。

2. 創造神は個人的に関わってくださるお方

- ・もう1点は、神が私たち1人ひとりに、個人的に関わってくださることです。何という幸いではありませんか。私たちはそのことを喜び、感謝したいと思います。

* God bless you !